

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：35305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02557

研究課題名（和文）美術作品が導く見立てのイメージ媒介に立脚した幼児の描画発達への臨床的アプローチ

研究課題名（英文）Clinical Approach to the Development of Drawing Skills of Young Children Based on Mitate Imagery Mediation Guided by Works of Art

研究代表者

小田 久美子（ODA, Kumiko）

ノートルダム清心女子大学・人間生活学部・教授

研究者番号：10461229

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：これまでの基盤的研究をもとに、就学後の教育を見越した教育実践としての具体的な活動の開発と臨床応用するための実践研究を進める。日本には、豊かな想像力で動物や植物を題材に「見立て」を行う表現文化がある。国内で発展してきた「見立て」を、創造性・動物表象・模写活動の視点から子どもの描画発達との関連を概観し整理することで、見立てによるイメージの媒介を行うことが子どもの描画発達の手がかりとなることを検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

見立てによりイメージを豊かにする造形遊びは、美術教育をより自然で身近な活動と捉えることができ、幼児教育と表現教育、芸術教育を統合した教育実践を展開していることが本研究の意義である。

研究成果の概要（英文）：Based on foundational research till date, the present study develops specific activities as educational practices in anticipation of post-school education and promotes practical research for clinical applications.

Japan has a culture of expression in which people use a rich imagination in the process of mitate, or “likening” animals and plants to subjects. Mitate (“likening”) has developed in Japan. By outlining and organizing the relationship between mitate and children’s drawing skill development from the perspectives of creativity, representation of animals, and reproducing activities, it was verified that imagery mediation by means of mitate is a clue to children’s progression in drawing.

研究分野：幼年造形教育

キーワード：子どもの描画発達 イメージ媒介 見立て

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

白い画用紙を前に、何も描き出せずにいる子どもがいる。白紙に絵を描くことに逡巡する子ども達を一人でも多く救う手だてを講じることは、教育・保育現場にとって急務であると言える。したがって本研究では、これまで進めてきた基礎研究の継続研究として、就学後教育を見越した教育実践としての具体的な活動の開発と臨床応用するための実践研究を進める。

イタリアルネサンスの巨匠 L.daVinci は、木や石にある模様を見て、様々なイメージを見立てたと伝えられている。あるものの形を別のものに見立てる「見立て」は、つもり遊びやごっこ遊びなど、想像力を働かせて行う遊びとして子どもに親しまれているだけでなく、古来、日本の芸術作品・文化の中にもたくさん存在し、現代生活の中にも浸透している。

例えば、和菓子には、季節を代表する自然をなぞらえたり象ったりしたものが多くあり、日本庭園では小さな空間の中に海や川・山、彼岸や此岸を表したものがある。正月の御節料理や節分など、子どもは伝統的な行事の中でも見立てを体験している。『鳥獣人物戯画』の動物を人物に見立てる擬人化表現が、その巧みさで知られているように、日本絵画にも豊かな想像力で動物を含む自然を表現したり見立てを用いたりした表現がある。

そこで本研究では、ものを別のものになぞらえる作用が、創造性の発達にとって有効な手だてになり得るというこれまでの研究から得た知見をもとに、親しみのある日本の見立て文化から造形遊びの中でイメージの媒介を行うことにより、これまでにない教育実践を展開する。

2. 研究の目的

【研究目的1】

子どもの豊かな創造性を育む創造性教育の課題を明確にするため、日本における創造性教育の歴史を概観し、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における創造性の捉え方を整理し、課題と展望を抽出する。

【研究目的2】

保育者と、保育者になるための学びを続けている幼稚園教諭・保育士養成課程の学生に実施した予備調査を基に、日本人の動物観と表象を交えて、独自に進化していると言える子どもの周辺の動物表象の実際から検討しながら、子どもの生活環境の中にある動物表象が含み持つ課題に焦点を当てる必要性について整理する。

【研究目的3】

研究実践方法の構築を行うことにより、就学前造形遊びの中に見立てによるイメージ変換作用を取り入れることで、表現活動と鑑賞活動がインタラクティブに融合される造形カリキュラムを得る。具体的な方法を見いだせないまま日々の実践に苦慮している教育・保育現場へ、絵を描くことに消極的な子どももそうでない子どもも共に楽しく包括的に、幼年造形から就学後の美術教育のねらいにスムーズに移行出来る新しい方法論を報告する。

3. 研究の方法

【研究目的1の方法】

幼児教育関係の告示文を分析し、保育と創造性に関する文献を調査する。

【研究目的2の方法】

動物表象に関する意識調査を県内公私立幼稚園・保育所・認定こども園の職員 89 名と実習経験のある幼稚園教諭・保育士養成課程の学生 95 名に、質問に回答する質問紙の形で予備調査を実施し、まとめた。

【研究目的3の方法】検証結果をまとめ、緻密なデータの上に立脚した幼年造形教育における新しい教育実践方法論を展望する。

4. 研究成果

【研究目的 1 の成果】

子ども・保育者・保育者養成の3つの視点から考察を行うことで、子どもの創造性を育む教育が領域を超えて包括的であること、保育者の創造性育成への意識の必要性が明らかになった。

【研究目的 2 の成果】

保育者や養成校の学生が子どもに適すると認識している動物表象と、実際に使用されている表象には揺らぎが生じている。このことから、子どもの美術的環境内に浸透している動物表象の課題に焦点をあて、子どもの観察力や探究心、審美心に寄り添う美術環境を整える必要があることが明らかになった。

【研究目的 3 の成果】

研究目的 1 と研究目的 2 の成果を踏まえて、最終目的である研究目的 3 の推進のため幼年造形教育における教育実践方法を構築し、学会発表および研究論文として学会誌に投稿、掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松本美里, 高橋 慧, 小田久美子	4. 巻 第54号
2. 論文標題 「保育施設 4 歳児学級における模写的活動と保育者の援助が 子どもの描画表現にもたらす効果の検討」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学美術教育学会『美術教育学研究』	6. 最初と最後の頁 1-8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田久美子, 馬場訓子, 高橋慧, 横田咲樹	4. 巻 第47巻 第1号 (通巻68号)
2. 論文標題 「幼児の創造性教育における研究動向と課題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ノートルダム清心女子大学紀要 人間生活学・児童学・食品栄養学編』	6. 最初と最後の頁 94-104頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田久美子, 高橋敏之	4. 巻 第55号
2. 論文標題 「子どもの生活領域にある動物表象とその美術教育的課題の発掘に関する序論的考察」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学美術教育学会『美術教育学研究』	6. 最初と最後の頁 73-80 頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本美里, 高橋 慧, 小田久美子	4. 巻 第56号
2. 論文標題 「保育施設 5 歳児学級における模写的活動と保育者の援助—子どもの描画能力及び描画意欲の向上と保育者の言葉掛け—」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大学美術教育学会『美術教育学研究』	6. 最初と最後の頁 33-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小田久美子
2. 発表標題 「日本の風土が培った文化を接点とする子どもの描画発達への緒への視座 - 子どもの描画活動への可能性を探る - 」
3. 学会等名 大学美術教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田久美子
2. 発表標題 「子どもをとりまく環境の中にある動物表象の諸相に関する序開的考察」
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋敏之, 高橋慧, 小田久美子
2. 発表標題 「レッジョ・エミリア保育実践の創造的教育と日本への導入における問題点と課題（第一報） - 芸術性の理解・アトリエリストの養成・プロジェクト学習を中心にして - 」
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小田久美子ほか（第11章第1節・第2節, 第13章第2節第1項・第3節） 吉永早苗編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 176
3. 書名 『子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------